

ふるさと

顔

No.403

若い人たちは夢を持って
夢を叶えるため
努力してチャンスを生かして欲しい



町長室から こんにちは

新得町長 浜田正利

最近の出来事から今後の動きについて強い期待を持っていることを紹介します。

1点目は、6月21日に新内ホールで「第100回記念コンサート」が開催されました。新内ホールは昭和49年3月17日に閉校になった新内小学校を、当時の北海道教育大学札幌校准教授であり作曲家でもある南聡氏の助言をもとに平成4年8月に誕生し、9月26日にオープニングコンサートが開かれ、今日を迎えたところです。演奏をされた方からは「音響効果は抜群」との高い評価をいただいているホールでもあります。これまでに関係された方々のご努力に心より敬意を表するところです。



2点目は、6月22日に白川鹿追町国保病院長、計良新得クリニック院長、藤城清水赤十字病院院長の3医師が世話人となり「三町医療ネットワーク」を立ち上げました。これからの

「自分」の会社を持って成功させるという夢の実現に向けて、他の事には脇目も振らず徹底的にやってきたから、余分な時間というのが無かったよ」と話すのは古川盛さん。

「新得高校定時制の一期生だったんだよね。入学当初は8人くらいいた同級生が卒業する時には14人になってたね。高校の始まりから終わりまで見届けることになっちゃったけど、母校が無くなるのは寂しいよね」と話し、「今の新得高校の生徒は自信と誇りを持って社会に出て行つて欲しいんだよね。町内で活躍されている方々は新得高校の卒業生も多いしね」と在校生にエールを送る。

古川さんは、新得町で父親が大工をしている家庭に生まれ、7人きょうだいの長男として育つた。

「小学生の時はまだ、戦時中だったから援農で毎日、草取りなどしてたよ。本当は勉強したかったんだけどさ」と話す。戦争が終わっても、家族を守るため家業の手伝いをしない訳にはいかず、思うように勉強はできなかった。

父親が大工の親方として、何人か

地域の医療供給体制を考えた場合、足りない部分を互いが補完し合うことにより、今まで以上に地域住民の方が安心して暮らせる事は大変良いことである。とりわけ少子・高齢化が進む中、医療、介護制度の見直しもあり費用負担の在り方、医療、介護の現場を支える人材の確保、強固な地域包括ケアシステムの構築など課題は山積しており、三町の連携は大変意義のあるものと考えております。なお、当面は医療機関と行政関係のみの参加としますが、今後は介護関係者など他の分野の方との連携も視野に入れていく事としています。

3点目は、6月17日に選挙権年齢を「20歳以上」から「18歳以上」に引き下げる事が決まり、来年夏の参議院議員選挙から実施される見通しとなりました。高校三年生が選挙権を有することになり正直なところ若干戸惑いを感じていますが若い世代が国政を含め政治に関心を寄せることは大変有意義な事と感じております。

4点目は、屈足地区で交通死亡事故ゼロが6月27日で連続4千日を達成しました。平成16年7月13日にトムラウシで札幌の方が亡くなった事もあり、屈足交通安全協会が中心になって地域を挙げての地道な努力が実り達成されたもので、心より敬意を表するところです。ちなみに5月現在の北海道内自治体別の交通事故死ゼロの記録ランキングでは6位の位置にあります。なお、交通事故死ゼロの1位の記録は西興部村の7421日とのことでした。



さかり 盛さん (81歳) 東進会
ふるかわ 古川

雇って仕事をしていたが、生活するのがやつとで、決して裕福ではなかった。「せめて高校くらいは出ておかなきゃ」と思つて、日中は、父親の仕事を手伝つて、夜に高校に行つて勉強したんだよね。勉強すればするほど、父親がやっていた大工の仕事は、やってもやっても生活が一向に楽にならないのはなぜだろうと考えるようになった。これは将来性も考えて企業化するしかないと考えていたんだよね」と当時から会社を起す夢を抱いていた。

26歳の時に建築士の資格を取つたのを契機に起業した。それとほぼ同時に近所に住んでいた妙子さんと結婚し一男一女に恵まれた。

「起業した当初は、お金が無くて人を雇えないから自分で8役くらいやったよ。経理やつて仕事の指導して、大工もやつてつてね。家内も一緒に苦労してくれただけでよくホヤいてたよ」と笑いながら話す。

古川さん自身も大工という職人であつたが、大工の地位向上や意識の向上が必要と感じていた。

「その当時の職人は技術はあつたが

短歌

新得短歌会

年めぐり神にあいにき護国の杜
義父らの命いしずえになりて

小野 恭子

雑草と対峙する吾れ最後にと
笑う者とは知りつつもなお

小関 白潮

緑濃き町に住み慣れ宝もの
探す歌留多に導かれつつ

中井由利子

タブレット合図があれば聞き見る
ひ孫二人の寝顔と笑顔

石本 洋

十勝野に告げる季節や蝉しぐれ
虹の彼方に覗く真夏が

荒木 伸一

屈足短歌会

ひと雨のめぐみ頂きビート畑
背丈のびつつ風にあをられ

船場 君子

車椅子あやつり行くも自律への
道と知りつつふと手出しする

渡辺 征子

夕まぐれ霜の子報にせかされて
ハウスの野菜二重に囲ふ

羽場タカ子

俳句

新得俳句同好会

送り来し新茶の香り部屋に満つ

八木 育子

船溜まり海霧に包まれ祭り舟

大崎かずお

しとど降る雨に色増す四葩かな

西川 勝仙

涼求め木陰に集う牛の群れ

月井 愁峰

万緑や目線豊かに八十路道

斉藤 責台

強風に芯を残してチュウリップ

袴田ゆき男

雷鳴やこけしの瞳ふと開く

高橋 民女

生き死にの話今更心太

中島 土方

誇りを持っているように感じなかった。若い人たちが技術だけでなく誇りも持てるように勉強できる所がないとダメだと思つて、職業訓練校を作ることが事業者の皆さんに提案したんだよね。そして、昭和41年に新得地方共同職業訓練所ができたのさ。そこに通う人たちの中でも志を高く持つ人も出てきたから念願は叶ったよね。でも、今考えたらどういつことやつてたら会社としては金儲けにはならなかったんだよね」と笑いながら話す。

「何でもやつてきたんだけど、ただ一つだけできないことがあつたんだよね。企業として一番大切な『信用』。これはいくら勉強したつて資格を取つたつて、すぐに得られるものじゃない。そこで社会奉仕をしなくちゃならんと考えて社会奉仕団体のライオンズクラブに入ることにしたんだよね」と話し、今年で50年目になるという。社会奉仕をするという考えのもと町議会議員や社会福祉協議会会長など様々な公職を歴任した。

「忙しかつたけど、周りのみんなの協力があつたからこそやり遂げられた」と感慨深く話した。

「今まで成功するために死に物狂いで努力してきた夢が叶った。今はね、ちよつと体に余裕ができたから、来年は家の前の道路(道々々張新得線)沿いにチューリップを植えようかなあと考えているんだよね」と穏やかに話した。